

神戸

神戸教区の今夏の青年活動①神戸教区中高生大会へのCS(キャンプサーバイ)としての参加②広島平和キャンプ(教区広島被爆六十年礼拝に合わせ実施)③ティスカッションキャンプ(左記のプログラム)④神戸聖ミカエル教会でワークキャンプ。

八月二四日から三泊四日青年交流会を行いました。案内状発送など遅れてしまったため、見た目大きなものにはなりませんでした。私にとっ

ては、とても価値のある青年交流会であったと思います。今回の青年交流会では、テーマを「賛美」としてプログラムを組み立てていきました。その中でもメインとなったのが大阪教区から荒川真紀さんをお招きしてのゴスペル体験でした。

ゴスペルに関しては、交流会参加者のほとんどが未経験者であり、特に私は、ゴスペルそのものがよく分かっていませんでした。そんな参加者と、皆さんと一緒に

なつての初のゴスペルは、聖歌とも、テゼともまったく違う未知なる音楽のように感じました。難しく考えているわけはありません。

むしろ、荒川さんを見てみると「楽しく・面白く・笑顔で」というのがゴスペルなのかとも感じたりです。それでも、未知なる音楽だと思

いました。荒川さんからもうひと

つ学んだことがありません。それは「神様に感謝することを忘れないこと」です。荒川さんはみならず手の上にかざして拍手をしていました。そして時には、「神様ありがとう」という言葉を言っていました。神様との会話を楽しみ、感謝し、ゴスペルを行う。これが荒川さん流の賛美の仕方なのかと痛感し、羨ましく思いました。

最後に、皆さんは礼拝を行う時、「賛美」の意味を忘れてはいませんか？

東北

「分かち合う若い力」

八月四〜六日、青葉静修館と聖ペテロ伝道所を会場に、東北教区宣教部主催のユースキャンプが行われまし。連日三〇度を越える猛暑の中、中高生を中心とする参加者九名とスタッフの合わせて二

名が、共に祈り、食事をし、パン作りや泉ヶ岳登山を体験しました。パン作りは全員が初体験。慣れない手つきでこねた生地は見事膨らみ、大成功。このパンと

ぶどうジュースを使って、キャンプ最終日に「愛餐の礼拝」



青年交流会に参加してくれた皆さん、関わってくれた皆さん、そして神様に感謝しました。ありがとうございます。この原稿は神戸教区報のために書かれたもので、本人に許可を得て掲載しています。

横浜

「横浜教区は自然と都市とのコントラストが豊か。このような環境のなかで自然との平和・和解を核にしたプログラムが実行できないだろうか？」

この礼拝は、司式など全ての役割を参加者が自分たちで決めて行いました。普段あまりする機会のない司式や聖書朗読も、事前に練習したり、教わりながら精一杯務めていました。初めて会った人も仲良し同士も、一つの家族のように互いに助け合いながら過ごした三日間でした。中高生を対象にしたプログラムは、あまり多くないのが現状です。共に集まること、時間と力を分かち合うこと、そして体験することが若い世代、特に中高生にとって大きな恵みになるのではないのでしょうか。

今回のキャンプを通して、一人一人が様々なことを感じたことでしょうか。

東北教区の若い力が成長出来るようにこれからもユースの活動を大切にしていこうと思つています。(東北教区青年担当/司祭越山哲也)

この経験を応用すれば、街の生活のなかにあって自然物を見つけ出す眼力が生まれ、殺伐とした街の暮らしのなかに自然との接点があることに気づくのです。この他に温泉、B・B・Q、青年大会のふりかえりもあり、参加者は十数名。次回は：冬？

中部

九月二四〜二五日新潟聖パウロ教会において「青年の集い」新潟から始まる私たちの教会生活」が行なわれました。教区宣教一三〇周年記念行事に合わせる形で、この会は計画されました。新潟は、一三〇年前に宣教師が初めて訪れた中部教区の始まりの地であり、そのことを意識し、また教区の青年活動の中で、新潟伝道区は特に困難な状況にあり、勇気付けの意味も込めたものとなりました。

八月八〜十二日、浜松聖アンデレ教会にて中高生チャブレンと「青少年・中高生キャンプ」を開催しました。教会敷地内の整備と学びがメインのプログラムで、中高生といっしょに過ごすのは昨年に引き続き二回目。今年も中高生のパワーに励まされながら青年たちも元気に過しました。(横浜・青年チャブレン/司祭小林祐二)

一日目は夕刻から協働教区のフイリン聖公会北中央教区の方々も参加し「パーベキュー」を行い、その後、青少年プログラム委員会作成の「一人生ゲーム」教会版」を深夜まで行いました。

二日目は新潟の教会の皆さんと聖餐式に参加し、その後、新潟の青年たちの案内により新潟市街で昼食をし、閉会しました。

とても短いプログラムでしたが、何よりも新潟伝道区と他の伝道区の青年たちが出逢い、交流を深められたことが、非常に大きな実りでした。(中部教区 青少年プログラム委員 執事 ヨセフ下原太介)

この経験が呼び覚まされるようなプログラムでした。



八月八〜十二日、浜松聖アンデレ教会にて中高生チャブレンと「青少年・中高生キャンプ」を開催しました。教会敷地内の整備と学びがメインのプログラムで、中高生といっしょに過ごすのは昨年に引き続き二回目。今年も中高生のパワーに励まされながら青年たちも元気に過しました。(横浜・青年チャブレン/司祭小林祐二)